



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2012.12

No.344

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



来年も行きます、台湾バードウォッチング

山部 直喜(三郷市)

この秋、『唐沢先生(補1)と行く台湾バードウォッチングの旅(第3弾)』に参加しました。鳥見に限らず、台湾に行ったことのある人からは「台湾は楽しい、実がいい。また行きたい」という声をよく聞きます。全くその通り！私にとって初めての台湾でしたが、次回に備え『新台湾賞鳥地図』などを取り寄せて計画を練っている今日この頃です。

● いざ、出発

探鳥地は鳥来と大雪山の2ヶ所。日程は3泊4日。観光地巡り無し。首都台北とてスルー。大雪山には連泊。時差は日本の1時間遅れ。出発は羽田。これだけで体に優しい旅行だということが分かる。参加者はガイドさんを含め11名。

● 鳥来(ウーライ)

羽田を日本時間の11時に出発し、現地時間の16時には、すでにここで目的の1つ台湾の国鳥ヤマムスメ台湾藍鶯(台湾特産種)を探していた。しかし、この第1日目はコサギを4羽見ただけ。早めにホテルに入り、温泉と食事をゆっくり楽しんだ。

次の日は、深夜の大雨も上がり6時からの早朝探鳥会。山道を歩き、ホテルからすぐの鳥来郷第一公墓を回る。ヤマムスメは、この共同墓地のお供え物をねらって来るといふ。

メジロチメドリ、タイワンオナガ、ゴシキドリなどを楽しんでいたが、心はやはり「ヤマムスメ、ヤマムスメ」。

だんだん鳥影が薄くなって、参加者も思いの方向を見ているようになった、そんな時、ガイドの陳さんの「ヤマムスメ！」の叫び声。

いきなり来た。「バサバサバサ、バサバサバサ」。騒々しい。木々の間を縫うように飛び、枝から枝へ跳び渡っている。5、6羽は

いる。あれか？ 1羽が街路灯の傘の上に立つ。出た。全身。後ろ姿。息を止めて双眼鏡で凝視。「1,2,…」いつの頃からか「これは！」と思う鳥が出ると、見ている時間を計る目的で数を数えている。同時に「大きい、頭は黒、上面は青、尾羽の先は白」と声には出さないが頭の中で怒鳴りながら確認する。

「3」を数えた時に、ヤマムスメが右肩越しに振り返る。目が合う。なぜか切手の「見返り美人」がフラッシュバック。「嘴は朱、虹彩は白、足も朱」とまた頭の中で怒鳴る。「4,5」、「6」で尾羽の裏側を見せながら奥の林に入っていく。完全に見えなくなって息を吐いた。

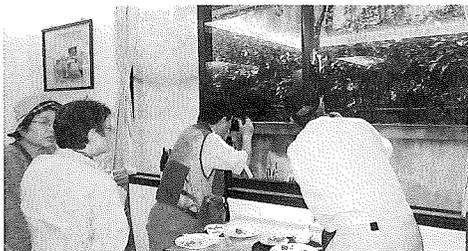
すぐに図鑑で復習。頭の中で怒鳴ったことを一つ一つ確認していく。「L:64-69 cm(大きいはずだ)、~虹彩は明るい黄色(自分には白く見えたな)、~小群で活動し、鳴き声は騒がしく(ウン、ウン、全くその通り)」。

目的を達すると心は穏やか。ヒメマルハシやセグロコゲラをゆっくり楽しむ。朝食の時には、窓の外の植え込みにルリチョウを見つめる(写真左下、中央が私)。朝食後は目の前の川でカワビタキ子早などを観察。ゆっくりしすぎて、次の目的地、海拔約2,300mにある大雪山のホテルに着いたのは18時半頃。あたりは真っ暗、おまけに濃霧の中。気温も低く、寝るときは電気毛布を利用した。

● 大雪山

まずは早朝探鳥会。ホテルの食堂裏が絶好のポイント。カンムリチメドリの鳴き声が響き渡る。聞きなしは「Nice to meet you.」と陳さんが教えてくれた。「ここは7時を過ぎると野鳥の運動会だ」とも話してくれた。

確かにその時間になるとキンバネホイビイ、ヤブドリ、タケドリ、コンヒタキ、ミミジロ



(「ルリチョウだ！」 撮影:唐沢先生)

チメドリ、キバラシジュウカラなどが次から次へとその姿を現した。

しかし、今日の目的はミカドキジ。陳さんのここぞと思うポイントに向かう。「15時半から17時頃がいい。天気がいいときよりむしろ小雨の時の方がよく出る」とのこと。

山道では、右写真の看板をよく見た。餌をまいたり、テープでおびき寄せたりすることは禁止されていることがよく分かる。



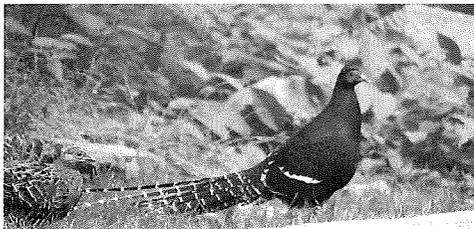
15時、ポイントに到着。舗装された車道の脇である。すでに3人の先客が来ていた。ポイントを挟み、向こうとこちらで待機する。

16時、気温がどんどん下がってくる。霧も出てくる。諦めムードも漂ってきた。16時20分、先客の2人が帰る。

その直後だ、ポイントの岩陰からひょっこりと動く塊。……ミカドキジみだ。

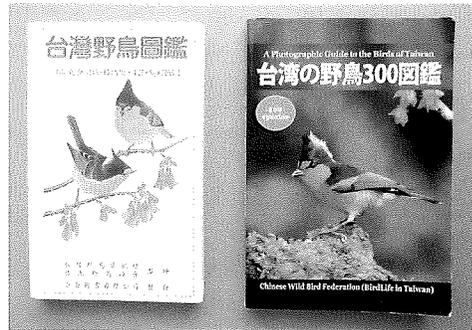
「1, 2, 3, ……」。数を数え始める。「顔は赤、体は緑黒、長い尾羽に白の横紋」と頭の中で怒鳴る。あれ？もう一つ動いている、♀だ。

この後は数も数えず、頭の中で怒鳴りもせず、息も普通どおりにして、ただただ2羽を見ていた（撮影：山部）。このミカドキジはタカサゴマシコみ♀も連れてきた。



大雪山2日目も早朝探鳥会は食堂裏から。昨日確認した鳥種に加えて、ズアカエナガ、アリサンヒタキが増えた。帰りの山道でも、ベニサンショウクイ、チャバラオオルリ、カンムリチメドリの姿も確認できた。

今回記録できた鳥種は43種。内、台湾特産種は8種類、台湾特産亜種は18種。個人的に確認できたのは40種だった。



● 図鑑について

台湾の野鳥図鑑の定番は、谷口高司さん（補2）の絵による『台湾野鳥図鑑（写真上の左）』だ。『新台湾賞鳥地図』にも写真入りで「野鳥図鑑は賞鳥時必備の工具書」と紹介されている。

しかし、日本でも台湾でも入手困難である。やむをえず、日本語版『台湾の野鳥300図鑑（写真上の右）』で旅行に臨んだ。写真が小さくて物足りなさを覚えたが、日本語ということで内容がよく分かり助かった。今回、出会った野鳥の中で、この図鑑に載ってなかったのはヒヨドリだけだった。

● また行きたい

と思っている。その訳はガイドの陳さんの存在も大きい。台北松山国際空港で初めてお会いした時のことから強く印象に残っている。

服装は山行用の赤いウールの長袖シャツ、胸には「台湾国家山協」のエンブレム。所作ににじみ出る品の良さ、そしてユーモア。同行した人に何うと「台湾のガイド協会理事長。特に山岳ガイドの専門家。台湾国家山協の創立者。日本でも働いたことのあるお医者さん」等々。歴史にも深い見識を持ち、バスの中では、台湾と「新渡戸稲造、後藤新平、八田與一」を熱く語ってくれた。

来年、行く予定である。

（補1）2009年の年末講演会で『唐沢流・自然観察の愉しみ方』の講演をいただいた。詳細は『しらこぼと』2010年2月号。

（補2）2008年の年末講演会で『フィールドガイド 日本の野鳥』の講演をいただく。詳細は『しらこぼと』2009年2月号と3月号。

2012 年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時：2012年9月17日 9:35～11:15

場 所：さいたま市大久保農耕地

天 候：晴れのち曇り

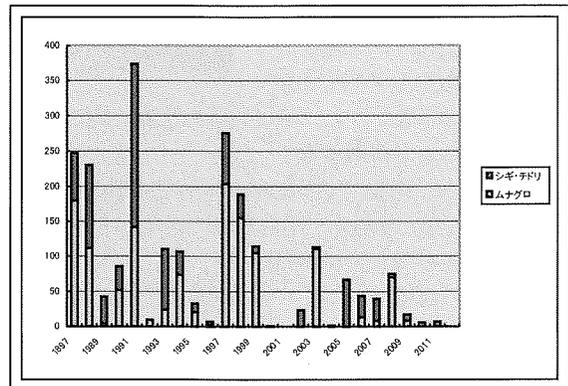
午前10時30分ごろまでは晴れ間もありましたが、終了時にはすっかり雲に覆われ、時々雨も落ちてきました。しかし、南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、当日も30℃を越える真夏日となりました。また、3連休の最後にもかかわらず、会員15名の協力が得られました。ありがとうございました。

稲刈りがすっかり終わり、記録的な厳しい残暑が続いたため、田んぼはほとんど乾いた状態でした。そのためかシギ・チドリ類は観察されませんでした。カウント結果が0だったのは2001年以来11年ぶりです。はっきりしたことは分かりませんが、8月から続いていた猛暑や雨がほとんど降らなかったことなどから、田んぼの乾いた状態

が続いたことも原因だと思われます。グラフと表は今までの秋の調査結果をまとめたものです。

※表の中の「タシギ属不明種」、「チドリ科不明種」、「シギ科不明種」は、種数には入れませんでした。(石井 智)

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類



秋のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
調査日	9/15	9/15	9/15	9/15	9/16	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/14	9/13	9/18	9/19	9/18	9/17	9/15	9/21	9/20	9/19	9/17
天 候	晴れ	曇り	晴れ	雨	雨	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	雨	曇り	晴れ	曇り	曇り	雨曇り	晴れ	曇り	晴れ	雨曇り	晴れ	曇り	曇り	曇り	晴れ	晴曇り
1 タマシギ					1																					2
2 コチドリ		26						11	1		13															
3 シロチドリ				2	2																					
4 ムナグロ	179	112	4	52	142	10	24	74	21	3	203	155	105				110			13	8	70	8			
5 ケリ		2																								
6 キョウジョシギ					2																					
7 トウネン					2		2																			
8 ヒバリシギ		1																								
9 エリマキシギ											1	2														
10 アオアシシギ																				5						
11 クサシギ	1	1			1			1	1																	3
12 タカブシギ	36	15		12	17											4				6	1	7				
13 イソシギ					5		1				1															1
14 ホウロクシギ													1													
15 コジャクシギ												6														
16 タシギ	29	72	38	20	185		80	19	11	1	51	24	6			17	3	1	60	23	15	4	9	5	7	
17 オオジシギ										2				1												2
タシギ属不明種	2	1			8			2			1	2	1				3				2	2				1
18 アカヒレアシシギ					9																					
チドリ科不明種											1															
シギ科不明種													1					1	1		1					
台 計	247	230	42	86	374	10	107	107	33	7	275	189	114	1	0	23	113	2	67	44	40	75	17	6	7	0



野鳥情報

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇9月7日、12日、14日、アオバト♂1羽♀1羽。特定の木の实を食べに時々現れた(海老原美夫)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月1日、エゾビタキがナラ林で枝移り。カシの木で数羽のカケスが鳴き騒いでいた。10月8日、マガン2羽が西から東に向かって上空を通過した。ここでの初認。ハシブトガラスが瞬膜を開けたり閉めたりしながら居眠りをしていた。モズの高鳴きが激しさを増した。カケス14羽の群れと4羽の群れが西から東に飛んだ。10月14日、庭木にキビタキ♀タイプ、1羽の様だった。エナガ、メジロ、シジュウカラ、ヒガラ(1羽)、コゲラの混群がナラの林を移動していった。10月20日、屋敷林からジョウビタキの声。今季初認。植木の中をジョウビタキ♀2羽が追いかけて。後から♂がコムラサキの実を食べに来た。10月25日、ブロック塀に止まっていたジョウビタキ♂を、飛んで来たハクセキレイ♀が、追いかけてまわした。数本のヒノキの枝間でイカルが優しい声で「オキク24」と鳴く。姿も優しかった。今季初認。10月28日、50羽士のヒヨドリが東から飛んできた。新たに渡って来たようだ(長嶋宏之)。

さいたま市南区/戸田市彩湖 ◇10月2日さいたま市側、3日戸田市側で夏羽・冬羽、成鳥・幼鳥様々なクロハラアジサシ22羽。ハジロクロハラアジサシ成鳥冬羽1羽(海老原美夫)。◇10月20日、カイツブリ夏羽



10月6日秋ヶ瀬公園でエゾビタキがさかんにフライングキャッチ。(石塚 奏)

2羽、冬羽1羽、カンムリカイツブリ夏羽1羽+、キンクロハジロ♂2羽、♀型5羽、チョウゲンボウ♂1羽、ハジロクロハラアジサシ幼鳥1羽、クロハラアジサシとならぶと明らかに小さい。クロハラアジサシ10羽土。ジョウビタキ♀2羽、今季初認。マヒワ10羽+の群れが二つ(小林みどり)。

さいたま市大宮区大宮公園 ◇10月6日午前8時半頃、ワンコの散歩で日本庭園に立ち寄ると、地元の鳥見人(トコロジスト?)数人。情報交換していると、そこへ混群飛来。コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロそして、何とサンコウチョウ1羽! 尾が短く、ブルーのアイリングも目立たないので、幼鳥? その後、ポート池で、カイツブリ3羽、カルガモ5羽、コガモ2羽、オナガガモ3羽、キンクロハジロ3羽。ワンコに感謝の朝でした(浅見 徹)。

坂戸市浅羽 ◇10月9日午前11時20分頃、土屋神社参道脇のエゴノキから落ちた実を、かわるがわる地面に降りてくわえては、隣接民家の庭の木や塀の上で実を割って食べるヤマガラ3羽。その採餌行動を繰り返して、10分ほど飽かずに観ていた(増尾 隆)。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇10月10日午前7時~9時、ピオトープ万葉橋を渡り、浅羽野橋への観察路中間あたり右側の林で、ツツドリ1羽、オオルリ♂若鳥1羽、水路でコガモ♀1羽、水路右岸の高木の枝に止まるエゾビタキ1羽、ネムノキ広場から見る高麗川の流れてオナガガモ♂エクリプス1羽。夏鳥、冬鳥、旅鳥が同時に見られるのは短期間しかない。ラッキー!(増尾 隆)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇10月10日、コガモ♀型12羽、バン成鳥2羽、額板と嘴の色が薄い若鳥1羽、セッカ2羽。10月12日、マガモ♂1羽、♀2羽。10月24日、タヒバリ1羽、今季初認。シメ3羽、「チッ、チッ」と小声で鳴きながら飛ぶ(小林みどり)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月10日、マガモ♀2羽、ヒドリガモ♂エクリプス1羽、♀型1羽、オナガガモ♂繁殖羽へ移行中4羽、♀型15羽。ハイタカ1羽、上空を飛ぶ。バン成鳥1羽、オオバン1羽、ツツ

ドリ幼鳥1羽。ヤマガラ、シジウカラなどの混群の中にシメ1羽、今季初認。早っ！10月12日、コガモ♀型1羽、ヒドリガモ♂2羽、♀3羽、バン成鳥2羽、キビタキ♂1羽。10月13日、ハシビロガモ♀1羽。10月24日、10月12日には全部で5羽いたヒドリガモが♂エクリプス1羽に減ってしまった。オナガガモ♂、繁殖羽へ換羽中11羽、エクリプス2羽、♀型12羽（小林みどり）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇10月15日午後3時頃、ヒガラ5、6羽、ムシクイの仲間とコサメビタキ各1羽。観察しているとシジウカラ、メジロ、エナガの群れが現れ、その中にヒガラが混ざり大忙しとなった（菊川和男）。

さいたま市見沼区思い出の里 ◇10月15日、エゾビタキ1羽、梢にとまるが、シジウカラに追い払われる（小林みどり）。

さいたま市見沼区七里総合公園 ◇10月16日、モズ1羽、梢にとまりメジロの鳴きまねをする（小林みどり）。

さいたま市中央区八王子 ◇10月18日、ヤマガラ数羽を数日前から自宅周辺で確認。今季はホント、どこにでもいます（石塚敬二郎）。

さいたま市見沼区藤子 ◇10月19日、チョウゲンボウ♂1羽、♀1羽。10月26日、ツミ1羽、ドバト20～30羽の群れの周りを飛ぶが、狩りをするつもりはないらしい。ドバトの方もそれを知ってか、落ち着いている。ミヤマガラス150羽士の群れ、その中にコクマルガラス3～4羽。今季初認（小林洋一、小林みどり）。

さいたま市岩槻区横根 ◇10月19日、ノビタキ2羽（野口修、小林洋一、小林みどり）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月20日野鳥園で、ヒガラ3羽（小林洋一、小林みどり）。

さいたま市岩槻区馬込緑のトラスト7号地 ◇10月22日午後1時頃、クロジ3～4羽、人家との境のフェンスの下でちょこちょこ動いていた。逆光のため非常に見難く、♂1羽と若鳥1羽は確認できたが、♀は分からなかった（菊川和男）。

羽生市羽生水郷公園 ◇10月25日、コガモの

クロハラアジサシ類の情報募集!!

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

本年10月初めに県内に飛来したクロハラアジサシ類の情報を収集しています。観察日時、期間、場所、個体数（多数の場合はおおよその数で）など、皆様の情報をいつもの野鳥情報アドレス toridayori@hotmail.com にお寄せください。

エクリプス30羽士、ヒドリガモのエクリプス4羽。カルガモ100羽十。杭の上でジョウビタキ♂が縄張り宣言。チョウゲンボウ♂が樹上で採餌。小さな獲物の様だった。ヤマガラ3羽がエゴの実を脇目も振らずに食べていた。その他にアオサギ、ゴイサギ、オオバン、バン、セグロセキレイ、ヒバリ、モズ、ホオジロ、カワセミ等（長嶋宏之）。

伊奈町小室 N35. 9926 E139. 6410 ◇10月25日、ミヤマガラス23羽、幼鳥17羽がハシボソガラス4羽と耕耘した田圃で採餌。飛び立ったミヤマガラスは少し離れた場所にいたミヤマガラスと合流して100羽士の群れとなり数枚先の田圃に降りた。中にコクマルガラスは居なかった。前日、この群れはいなかったの、25日に飛来したものと思う。ここで今季初認（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇10月26日、自宅前の電線にジョウビタキ♂1羽がとまり、「ヒッヒッ、カタカタ」と鳴く（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（さいたま春日部線～鷲山橋） ◇10月22日、ハシビロガモ♂エクリプス3羽、♀2羽、♂♀それぞれ別行動。バン成鳥2羽、若鳥（額板と嘴の色が薄い）1羽、幼鳥（額板がほとんど目立たない）1羽。ハクセキレイ1羽、空中を舞うように飛び回り虫を捕える。ウグイス1羽、岸辺のアシの中で笹鳴き（小林みどり）。

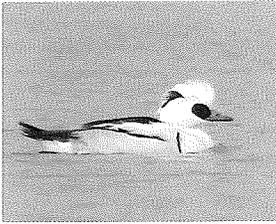
表紙の写真

チドリ目チドリ科タゲリ属タゲリ

昨年12月27日、市内の桜区秋ヶ瀬公園野球グラウンド。年末の風が吹き荒れる。さすがにこんな日は人がいなくて、タゲリが降りていた。 寺添捨男（さいたま市）



行事案内



ミコアイサ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月1日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→栗橋 7:56→柳生 8:05 着。または JR 宇都宮線大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線乗り換え。

解散：正午頃、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：佐野、玉井、中里、田邊、植平、内田(孝)、茂木、進士、山田、野口(修)、佐藤

見どころ：谷中湖ではミコアイサ(白)やカワアイサ(緑)、林の中ではベニマシコ(赤)やマヒワ(黄)など、色鮮やかな冬鳥たちを、中の島を通るコースで探します。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から北里メディカルセンター病院行きバス8:33発で「自然観察公園前」下車。(ご注意：1本前の8:16発は「公園前」を通りません)

担当：吉原(俊)、浅見、大坂、内藤、相原(修)、岡安、立岩、永野、山野、飛田、関口、吉原(早)、相原(友)、柴田、村上、長谷川

見どころ：公園の中を、ゆっくりと歩いて冬鳥との再会を楽しみます。集合場所と途中2カ所に清潔なトイレあり。老若男女、安

心して参加できます。時々、珍鳥も出現しますよ。今回は、何が待っているかな？

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：12月2日(日)

集合：午前9時、さいたま市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。

後援：さいたま市くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、須崎、倉林、野口(修)、大井、藤田(敏)、赤堀、若林

見どころ：待ちに待った冬鳥達に出会える季節の到来です。水辺の鳥たち、草原の鳥たち、里の鳥たち、それらを狙う鳥たち。出会いが楽しみです。寒いと思いますが、調節できる服装で。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：12月2日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:22→久喜8:35→花崎8:42。JR宇都宮線大宮7:58→久喜8:23で東武伊勢崎線に乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、中里、栗原、内田、植平、長谷川、茂木、竹山

見どころ：公園とその周辺の冬鳥を探して歩きます。池の畔で休むカモの仲間、木々の

梢でジッと周囲を見つめるシメ、生垣で食事のアオジ、杭にとまったジョウビタキ、樹冠を忙しく飛び交うツグミ、田圃の畦で休むアオサギなど、みんなで探しましょう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月8日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、小林(ま)、水谷

見どころ：狭山湖が活気づく時節の到来です。カイツブリ科、カモ科の鳥たちが皆さんを待っています。シーズン初めは意外な珍客が紛れ込んでくるかも知れません。名残の紅葉も綺麗です。

新潟県上越市・朝日池探鳥会(要予約)

期日：12月8日(土)～9日(日)

申し込み締め切り済み。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車

担当：千島、森本、倉崎、栗原、新井(巖)、飛田、鶴飼

見どころ：寒くても冬鳥たちが待っています。ゴルフ場脇から河川敷へ、野鳥の森まで歩きます。ジョウビタキ、アオジ、上空にオオタカ、ノスリが飛んでいることも。ベニマシコ、ルリビタキ、マヒワも期待です。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月9日(日)

集合：午前8時35分、岩槻駅前。または、9時、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武野田線大宮8:19発、または春日部8:17発で岩槻下車。集合後路線バスで現地へ。

担当：長野、田中、石川、吉安、長嶋、野村(弘)、榎本(建)、小林(善)

見どころ：公園内の林や池、小さなアシ原、

元荒川沿いをたどって冬鳥を探します。一部を除いて舗装されていて、足場もフラットな歩きやすいコースです。ご家族やお友達を誘っての参加をお待ちしています。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月12日(水)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:35→栗橋7:55→柳生8:05着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え。

解散：正午頃、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：玉井、大坂、楠見、田中、植平、松村、藤澤

見どころ：ラムサール条約の登録湿地になった渡良瀬遊水地を歩きます。水鳥たちばかりではなく、空にはチュウヒなどのタカ類、やぶにはベニマシコをはじめとする小鳥類がいます。静かな平日にこれらの鳥を満喫しましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月15日(土)

集合：午前9時15分、森林公園南口前。

注) 集合時間が少し早くなりました。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き8:42発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費以外に入園料 400円(子供 80円)、65歳以上 200円(年齢を証明できるものが必要)。

担当：中村(豊)、岡安、藤掛、大坂、佐久間、内藤、藤澤、宇野澤

見どころ：冬到来。今年はどうな出会いが待っているのでしょうか。ルリビタキ、ジョウビタキ、ツグミ、シメなどの常連さんはきっと来ているはず。カモたちもどっさり見られるといいですね。降り敷く落ち葉を踏みしめながら陽だまりの道を歩きます。

『しらこぼと』袋づめの会

日時：12月15日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口。集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、倉林、小林(み)、須崎、赤堀、浅見、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、増田、畠山、若林、渡辺

見どころ：秋にはマヒワも見ることができた三室地区です。今年は冬鳥たちも充実。皆さまのお越しをお待ちしております。

年末講演会

日時：12月23日（日）午後1時00分開場

会場：埼玉会館7B会議室「くすのき」

さいたま市浦和区高砂3-1-4 JR浦和駅西口下車、県庁に向かい徒歩6分

定員：100名(先着順)

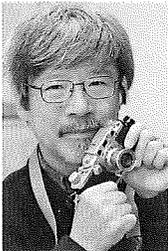
入場料：100円（中学生以下無料）

第1部 午後1時30分～2時45分

『映像で振り返るこの1年』

第2部 午後3時00分～4時30分

講演『種の再生に向かうアホウドリ』長谷川博氏（東邦大学理学部教授）



長谷川先生の下記公式サイトを事前に見て、講演後の議論に加わってください。<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/v-lab/ahoudori/index.html>

第3部 午後5時～7時 懇親会

事前予約が必要です。会費4000円。

第1部のビデオまたは写真を募集します（1人10分程度）。事前に橋口長和

にご連絡の上、当日会場に、ビデオの場合は再生機とともに、写真の場合はメモリーをご持参ください。懇親会参加の事前予約も、前記メールアドレスまたはハガキで橋口(〒)まで。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：12月30日（日）

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園駅東口から境車庫行き8:45発バスにて「上宇和田」下車、北方向に徒歩約5分。

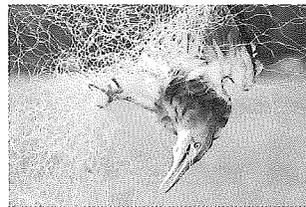
担当：中里、栗原、植平、佐野、佐藤、竹山、村上

見どころ：慌しい年末の一時、冷たく澄み切った空気の中、静かになった公園をのんびり歩きます。冬の鳥たちが皆さんをお迎えして心身をいやしてくれるでしょう。シラコバトに出会えたら来年の幸運につなげましょう。

4年前のヨシゴイの場合

Y.E. (さいたま市)

前号モズ救出の話を読んで思い出したのが4年前、2008年8月のこと。いつものヨシゴイ繁殖地を訪れると、アシ原の向こうの田んぼで何かが動いている。防鳥ネットでもがくヨシゴイ若鳥だ。付近の田んぼの持ち主とは親しくしている



がその田んぼの持ち主とは面識がない。えいままよとイネを倒さないように2歩ほど入り、手を伸ばす。数10分かけて取りはずし手の中におさめると小さく、細く、軽い。恩人をつつこうとする。首の骨の折りたたみ具合も指に伝わる。あぜに置いたら、歩いてアシの中に入って行った。

近年この田んぼでネットは張られていない。ヨシゴイの恩返しはまだない。

（下写真は後から来て手伝ってくれた鳥友N.O.さん撮影）





行事報告

7月21日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：35名 天気：曇後雨

カイツブリ カワウ アオサギ コジュケイ キジバト コゲラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ハシブトガラス (15種) (番外：ガビチョウ) この時季にしてはかなり涼しい中での探鳥会になった。後半は雨になってしまい、期待していた国蝶オオムラサキにはとうとう会えなかった。10日ほど前からポツポツ咲き始めたヤマユリの見られる道を選んで歩いたが、見頃にはまだ少し早かったようだ。今年も営巣中の西田沼のカイツブリを見たあと、森の中は野鳥の姿が少なかったが、時々コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロなどが姿を見せてくれた。ここ数年来ガビチョウの勢力はすさまじく、その大声が森を独占するかのよう園内のあちこちで響いていた。(中村豊己)

7月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

相原修一、新井巖、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫

7月22日(日) 狭山市 入間川

参加：33名 天気：曇

カイツブリ カワウ ササゴイ ダイサギ カルガモ イカルチドリ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) (番外：ドバト) 毎年、「7月の探鳥会は暑い」と予告しているのだが、今年は曇り気温もあまり上がらず熱中症を心配することなく歩くことができた。暑くないので、鳥を見ることに集中する事ができたけれど、その割に収穫が少なかった。しかし、草花を見たりタマムシを見つけたりで、夏の1日を楽しむことができたと思う。

7月29日(日) 長野県 乗鞍(畳平)

参加：35名 天気：晴時々曇

ライチョウ イワツバメ イワヒバリ カヤクグリ コマドリ ルリビタキ ウグイス メボソムシクイ ホシガラス (9種) 上田駅では、美人のドライバーさんがお出迎え。参加者一同、上機嫌で出発。目指すは標高2700mの乗鞍だ。途中の車窓から乗鞍が見えない。一同ニヤリ。乗鞍に着いて下界との気温差にビックリ。気温17℃と寒い位だ。お花畑で人だかりが出来ていて、そこに行くとライチョウの親子がいるのではないかと。登山道から5m位の所にいて、全然逃げない。肉眼でも親ライチョウの雛を思う暖かい眼差しを感じ取れる。ライチョウの碑の裏のハイマツには、イワヒバリの若鳥と親と一緒にいて参加者を喜ばせてくれた。昼食後、お花畑を一周して大黒岳入口まで行った。途中、コマクサ、ハクサンイチゲやクロユリ等の高山植物の花々を堪能した。乗鞍の探鳥に満足した一同が帰る時、コマクサがそよ風に揺られていて手を振っているようだった。「さようなら、また来てね」って。(入山 博)

8月5日(日) 北本市 石戸宿

参加：34名 天気：晴

カイツブリ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジバト ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (17種) (番外：ガビチョウ) 厳しい暑さとなった。木陰伝いに休憩をとるけれど、木陰に入った時は涼しいが、無風のため直ぐに暑くなる。熱中症対策のため休憩の度に水を飲む。出現鳥は遠くのホオジロなど少なかったが、アケビの枝に擬態して微動だにしないアケビコノハ(蛾)の幼虫(イモムシ、写真参照)に



盛り上がり、ツクツクボウシの声、シオカラトンボ、ウチワヤンマ、八つ橋から見える水草

アサザの黄色い花など楽しんだ。探鳥後は、クーラーの効いた学習センター内で鳥合わせをし、一息ついて終了した。(吉原俊雄)

8月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：20名 天気：晴

カワウ ダイサギ ハイタカ キジバト ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (16種) 昨夜来の雨が上がり、曇った蒸し暑い朝となる。今日はあまり無理をしないで、緑陰の小径を軽めに歩こう。雲の切れ間から差し込む日射しはさすがに厳しいが、大麻生駅前には早くもショウドウツバメが姿を見せてくれた。土手では、カラスに追われてハイタカが現れ、数羽のツバメ類にモビング(擬攻撃)されながら飛び去る。暑さにめげずに参加して下さった皆さんのお蔭で、鳥影は乏しいものの、思いのほか楽しい探鳥会になった。(榎本秀和)

8月18日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：19名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン コオバシギ オバシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オオソリハシギ セイタカシギ ウミネコ キジバト ツバメ ヒヨドリ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (30種) (番外：ドバト) 午前中は電車が一部止まるほどの大雨。そのためか参加者も少なめ。しかし、干潟が広がる谷津ではシギ・チドリをたっぷり楽しめた。胸にオレンジ色が残るコオバシギは全員ゆっくと見られた。(杉本秀樹)

8月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

相原修一、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫

8月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：44名 天気：晴

カワウ カルガモ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (15種) (番外：ドバト) 「暑い、暑い」だったが、日陰に入ると涼しい見沼たんぼの風が吹いていた。常連が多いこともあって、ひとしお鳥談議や日常のあれこれに話が弾む探鳥会になった。(楠見邦博)

8月26日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：36名 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ ミユビシギ ミヤコドリ オバシギ キアシシギ イソシギ ソリハシギ オオソリハシギ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ アジサシ コアジサシ ハクセキレイ セッカ ハシボソガラス (25種) 震災で2年振りの探鳥会となったが、液状化で東西の防波堤が真ん中あたりで沈下していた。砂浜も今までの半分くらいになっていた。砂浜が小さくなったせいか鳥の数が少なかった。防波堤が立ち入り禁止なので鳥が遠い。それでも砂浜ではミユビシギ、ハマシギ等が近くで見られた。(佐久間博文)

9月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加：33名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ トビ オオタカ ノスリ キジ クサシギ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 残暑が厳しく、土手の上を休み休み明戸堰に向かった。桜並木のところでツツドリを期待していたが、草刈りが行われていてがっかり。少し遠かったが、猛禽が3種出たのは幸運だった。明戸堰では予定していたイソシギのほかにもクサシギも見られた。(森本國夫)

9月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：13名

相原修一、新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄



●埼玉県のシラコバト調査にご協力を

保護対策検討の資料にするため、埼玉県が独自にシラコバト生息状況調査を実施しています。当会は調査員紹介と目撃情報の提供呼びかけで協力しています。ここでは目撃情報を提供して下さるよう呼びかけます。

今年 11 月と 12 月に埼玉県内でシラコバトを目撃した方は、

- 1, 目撃場所(他の人が調査に行けるようにできるだけ詳しく)
- 2, 目撃日時・羽数・状況など
- 3, 目撃者の氏名と住所・電話・FAX・メールアドレスなどの連絡方法

を、「〒330-9301 さいたま市浦和区高砂 3-15-1 埼玉県環境部自然環境課、FAX048-830-4775、a3140-09@pref.saitama.lg.jp」に、郵便・FAX・メールのいずれかでご連絡ください。

別途埼玉県が調査員を派遣し、現地調査を行います。

●関東ブロック協議会に出席

10 月 27 日(土)～28 日(日)茨城県大子町で開催された第 36 回関東ブロック協議会に、藤掛保司、海老原美夫、橋口長和、小林みどりが出席しました。関東地区 9 団体と本部から 38 名が参加。各団体の近況、渡良瀬遊水地ラムサール条約登録(栃木)、招致運動中の東京オリンピックのカヌー競技場を葛西臨海公園西側に建設する計画(東京)、野鳥撮影マナー(茨城県)などについて報告や話し合いをしました。2015 年には、埼玉が担当します。

●会員数は

11 月 1 日現在 1,915 人。

活動と予定

●10 月の活動

10月13日(土) 11月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。

10月20日(土) 見沼たんぼ市民ネットワーク「私の好きな見沼たんぼ写真コンクール2012」表彰式に出席(藤掛保司)。

10月21日(日) 役員会(司会：伊藤芳晴、各部の報告・1～4月の行事予定・その他)。

10月22日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け11月号を発送(倉林宗太郎)。

●12月の予定

12月1日(土) 編集部・普及部・研究部会。

12月8日(土) 1月号校正(午後4時から)。

12月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

12月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

冬の小鳥類の情報が次々と届いている。今冬は楽しめそうだ。一方、関東ブロック協議会の席で、東京が、カヌー競技場建設地変更の要望書を提出したことを報告。栃木が、関東地方でもコウノトリ放鳥計画が進行していることに対し、生息環境が整わない状態での放鳥に疑念を表明。いろいろな問題があります。(海)

カトリヤンマの産卵行動を観察したり、マイコ(舞妓)アカネの可憐な姿に接したり、エンマコオロギの巣穴を見つけたりと秋の昆虫ウォッチングも実に楽しいものです。今年は冬鳥の飛来も早いようで、そろそろ野鳥モードに切り替えねば。(藤原)

しらこぼと 2012 年 12 月号(第 344 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社